



●●●● 少女雑誌の部屋から ●●●●

雑誌には社会的背景が色濃く反映されます。満州事変から日中戦争、さらに太平洋戦争へと突き進んでいった日本。戦況が悪化していく中で発行された少女雑誌にも、その影響が顕著にあらわれています。

当時のことを直接知る世代が少なくなってきた今、過去の資料が教えてくれることや、そこから学ぶことは数多くあります。今回は、少女雑誌の代表格『少女の友』から見える戦争について考えます。

少女雑誌に見る戦争の影響

昭和 12(1937)年に日中戦争が始まると、雑誌の中にも戦争に関する記述が少しずつ見られるようになります。

昭和 15(1940)年、『少女の友』(実業之日本社)で読者から絶大な人気を誇っていた中原淳一の描く少女像は軟弱であると軍や政府から忌避され、ついには誌面から消えてしまいます。それまで描かれていた可憐な少女は家事労働、運動をする健康的でたくましい姿へと変わり、戦意高揚を目的とするスローガンまで添えられるようになりました。

昭和 16(1941)年の太平洋戦争開戦後は、言論統制やパルプ資源の節約を目的として出版社や雑誌の統廃合がすすめられ、その結果、昭和 19(1944)年には、少女雑誌は『少女倶楽部』と『少女の友』の 2 誌だけになりました。

戦時下における『少女の友』の変遷

※「 」内は表紙に添えられたスローガン



昭和 15 年
8 月号

全 260 ページ
定価：50 銭

表紙絵
宮本 三郎



昭和 17 年
7 月号

全 168 ページ
定価：50 銭
「青空の廣さを
心としようよ」

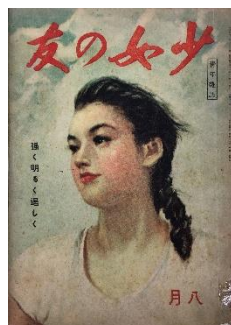
表紙絵
松田 文雄



昭和 18 年
8 月号

全 124 ページ
定価：45 銭

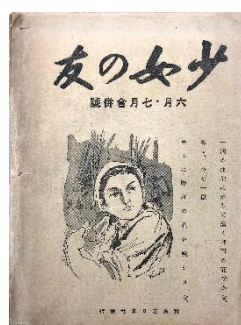
「一粒のお米の貴さ」
表紙絵
松田 文雄



昭和 19 年
8 月号

全 68 ページ
定価：45 銭
「強く明るく逞しく」

表紙絵
松田 文雄



昭和 20 年
6・7 月合併号

全 32 ページ
定価：45 銭

※簡易製本
表紙絵
松田 文雄

主な参考文献 参考文献：『少女たちの戦争』（中央公論新社）、『少女の友とその時代』（本の泉社）ほか